

チリ：暴力指示の上官 ようやく罪に問われる



2024 年 1 月 3 日、サンティアゴの地方検察庁は、2019 年後半に発生した抗議デモの弾圧に関与したとして、チリ警察の 3 人の現職と元上級指

揮官を起訴しました。

2019 年 10 月から始まった社会不安と抗議デモでは、警官による散弾銃での発砲で数百人が負傷するなど、深刻な事態が起きました。

当時、1 年がかりで現地を調査したアムネスティは、繰り返される警官による人権侵害の黙認や発砲命令をめぐる指揮官の責任などの問題を追及しました。また、当時の検察庁長官などの官僚組織の責任者が人権侵害に関与している疑いがあると訴えました。今回の 3 人の容疑の対象となった身体的完全性への権利の侵害に関する検察官の捜査には、背景情報を提供しました。

2024 年 1 月に提出された起訴状の対象になったのは次の 3 人です。チリ警察の現総監で、2019 年の抗議デモの際に秩序・治安局長を務めたりカルド・ヤニェス氏、同機関の前総監マリオ・ロサス氏、退役将官で前副総監のディエゴ・オラテ氏です。3 人は、チリ警察の上級指揮官としての責任が疑われています。

今回の起訴は、抗議行動する市民への重大で広範な人権侵害に対する正義への一歩であり、数千人の被害者に対する責任を問う裁判は、真実、正義、補償などに対する被害者の権利を尊重し、公正な裁判手続きと保障のもとで行われなければなりません。今後の捜査の進展、特に 5 月 7 日から始まる審問を注視していく必要があります。

アンドラ：中絶の権利活動家が無罪に



アンドラ公国で中絶の権利を訴えて国家機関の名誉を毀損した罪に問われていた女性権利活動家のヴァネッサ・メンドーサ・コルテスさんが無罪を言い渡されました。この無罪判決は、同国の人権にとって大きな勝利です。そもそも、

起訴されるべきではなかったコルテスさんですが、今後どのような報復も受けるようなことがあってはなりません。

女性の権利団体「ストップ・バイオレンシズ」の代表を務めるコルテスさんは、2019 年の国連女子差別撤廃委員会 (CEDAW) でアンドラの全面的中絶禁止に対する懸念を訴えました。この訴えを受ける形で、検察は翌年、コルテスさんを名誉毀損に関わる 3 つの容疑を提起しましたが、その結果、検察は国内外から強い反発を受けました。

2023 年 12 月、検察は「機関の威信に対する罪」に絞ってコルテスさんを起訴しました。国家機関や国家元首に対する名誉毀損を禁じる規定の下での起訴でした。

コルテスさんは 4 年以上にわたり不当な疑いにもとづく裁判に耐えてきました。この期間中、コルテスさんが関わる妊娠中絶の権利団体の活動や彼女自身の活動には大きな支障が生じました。今回の無罪判決で、今後の活動が期待されます。

国際人権基準によれば、政府や官僚は市民による法に則った検証や批判の対象とならしてしています。また、名誉に対する攻撃から保護する法律は、抽象的な価値や国家機関を保護するためのものではありません。また、アンドラには中絶を刑罰の対象から外し、中絶を必要とする人びとが安全で合法的な中絶を受けられるようにするための環境を整備することが求められています。

エジプト：10年以上も勾留される男性に正義を



アナス・アルベルタギーさん（30）は、父親が政府と対立的関係にあるイスラム同胞団指導者というだけで10年も勾留されてきました。2013年の逮捕

以来、秘密裏の勾留、殴打、医療の否定など人権侵害を受けてきました。さらに、2023年6月からは独房に入れられ、面会も許されず、体調不安は高まるばかりです。

アルベルタギーさんは、4件の容疑で無罪判決を受け、5件目では仮釈放の裁定を受けました。しかし、6件目のでっちあげのテロ関連容疑で、捜査終了まで公判前勾留が続くことになりました。

2023年11月にオンライン審理での審問では、アルベルタギーさんが長期の不当の勾留、劣悪な刑務所環境、面会権の剥奪などを批判したため、判事に話を遮られ、音声ミュートにされてしまいました。審理では、弁護士が裁判官とともに法廷に立ちますが、被告人は刑務所内の部屋に留まる上、職員が立ち会います。多くの弁護士は、機器接続の不具合で被告人の発言をよく聞き取れないなど技術的な問題を訴えてきました。

エジプトの治安部隊は長い間、何人かのエジプト脱出を主導してきたイスラム同胞団指導者モハメド・アルベルタギーさんの家族を標的にしてきました。治安部隊の弾圧で多数の犠牲者を出した2013年の大規模な座り込みの際には、アルベルタギーさんの妹（当時16歳）も犠牲になりました。しかしこれまでのところ、治安部隊や軍の誰も責任を問われず、一方ではイスラム同胞団のメンバーや支持者数千人が拘束されてきました。

■支援してください

アナス・アルベルタギーさんの支援をお願いします。こちらの[ウェブサイト](#)、またはインターネットで「アムネスティ UA アナス・アルベルタギー」で検索し、本文下の「要請例文」を「要請例文」をご利用ください。

メキシコ：行方不明者問題

2023年12月14日、メキシコのロベス・オブラドール大統領と内務省幹部が、「行方不明者捜索戦略」と呼ばれる失踪者・行方不明者の捜索方針を示す文書を公表しました。この文書には、全国の行方不明者名とその人数が記された「失踪者・行方不明者登録名簿」が掲載されています。

この名簿によると、1962年から2023年までの63年間の行方不明者・強制失踪者数が大幅に減少し、「114,004人が強制失踪から行方不明になったが、そのうちの79,955人については、十分な情報がない」として「不確かな分類」に入れられています。

行方不明者や強制失踪者の数が増える中、2023年、不明者の捜索とその家族の支援などをする国家捜索委員会は12,031人（男性8,426人、女性3,596人、不明9人）の行方不明者・強制失踪者を新たに登録しました。

2023年5月、メキシコ政府は失踪問題に対処する新たな戦略を打ち出しましたが、その実効性は疑問視されています。8月には、国家捜索委員会の委員長が新戦略に実効性がないとして辞任し、市民団体は「政府は失踪者数を少なく見せようとしている」と批判しました。10月に新委員長が指名されましたが、その選考過程の透明性の欠如や新委員長の経験不足など多数の批判の声が上がりました。

12月、被害者家族は国が数字を操作した可能性があるとの懸念を募らせ、情報の透明性を求めました。政府は12月、捜索委員会を擁護する声明を出しましたが、被害者家族の当局への不信は収まりません。一方、不明者の捜索に関わる複数の機関の解体が進められています。

政府は調査の透明性を確保し、失踪者の家族の声に耳を傾けるべきです。

■支援してください

行方不明者家族の支援をお願いします。こちらの[ウェブサイト](#)の「要請例文」をご利用ください。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円

郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本